報告 REPORT

自民党・道民会議議員会
医療関連促進議員連盟 勉強会

常任理事・医療政策部長　荒木（あらき）　啓伸（ひろのぶ）

標記勉強会は、自由民主党・道民会議 北海道議会議員会医療関連促進議員連盟（以下、医療議連）所属の議員に対して、医療界における課題や現況などについて認識を深め、その課題解決のために情報交換することを目的に昨年度に引き続き、３月４日（水）正午から北海道議会庁舎内にて開催した。

医療議連からは冨原亮会長代行、船橋賢二幹事長、檜垣尚子事務局長を含む46名が、当会からは松家会長、藤原・佐古・鈴木各副会長、目黒常任理事、小職が出席した。

檜垣事務局長の司会のもと開会し、冨原会長代行からは日頃の医療行政への協力に対して感謝の意と意見交換の期待が述べられ、松家会長からは地域医療体制に関する支援への謝意と診療報酬改定を踏まえた更なる支援の必要性について挨拶があった。

勉強会の様子１

続いて、目黒常任理事から「メディカルウイング」をテーマに北海道航空医療ネットワーク（HAMN）の概要、航空搬送事業の経緯、運航形態の変遷と現状の課題、小児バックトランスファーの意義と今後の展望等について説明した。

平成22年５月に医育機関や医師会、自治体などが参画し、関係機関で構成する「北海道航空医療ネットワーク」が北海道から委託を受けて固定翼機による航空搬送事業を開始した。研究運航や有償事業による運航を経て平成29年７月からは、国庫補助事業として運航している。また、小児バックトランスファーについては令和元年から民間企業の寄附により実施され、令和５年８月からは北海道地域医療介護総合確保基金による公的事業として継続されている。

メディカルウイングはヘリコプターと比較すると振動や騒音が少なく、与圧環境も通常のジェット旅客機と同等のため高度医療の継続が可能になる。

患者の身体的・精神的な負担が軽減されることにより、高度専門治療を終えた患者を早期に地域の医療機関に搬送することが可能となり、これらの利点を活かすことで高度専門医療機関の専用病床の円滑な運用、搬送に同乗する医療スタッフの不在時間短縮など多くの効果が期待できる。

一方で、研究運航時と現行の運航形態には違いがあり、札幌丘珠空港に機体を常駐させていない点が特に大きい。研究運航では丘珠空港に常駐し緊急搬送にも対応していたが、現在では搬送件数を基に予算が設定され、運航クルーの人件費や格納庫費用などの固定費が認められないため、要請の都度、名古屋空港を拠点にチャーター方式で計画搬送のみを行っている。

北海道は広大で医療資源の地域偏在が大きいことから、小児バックトランスファーの対象を成人にも広げることで、都市部の高度専門医療機関で治療を終えた患者が早期に地域で継続医療を受けられるようになり、専門医を地域に分散させることなく効果的に医療提供体制を構築し、専用病床を効率的に運用できると考えられる。

国庫補助金の算定根拠に固定費等が認められ、予算が拡大すれば、メディカルウイングを丘珠空港に常駐させ、当日の緊急搬送にも対応できるようになる。また、滑走路延長が実現されると、主に新千歳空港を利用している冬期間は搬送時間が短縮し、さらなる効果が期待される。道民がどの地域で暮らしていても格差なく、高度専門医療を受けられる体制を整えるため、道内常駐化に向けた国や北海道への働きかけに引き続き支援と協力をお願いしたい。

◇

出席した議員からは「丘珠空港常駐化の必要性」や「常駐化にかかる必要予算」、「災害時等におけるメディカルウイング活用の可能性」などについて質問が出され、活発な意見交換がなされた。

最後に、船橋幹事長より「令和８年第１回定例会では各会派からメディカルウイングに関する質疑が出ているが、小職も災害・緊急時における固定翼機の有効性に関する質問を予定している。研究運航時の運用を踏まえ、常駐させるべき根拠を示すことが重要であり、精度の高い方法で効率的に検討を進めていきたい」とのコメントがあり、終了した。

勉強会の様子２